

ひがし ぼうじょう ちょう
東坊城町

火祭り 「ほうらんや」

東坊城の地名を年代的に初確認できるのは、寛正六（一四六五）年の古文書記録です。その前後とみられる古文書類にもたびたび登場します。当時、この地に「小さなお城があった」の言い伝えもあり、東坊城の地名が中世早い時期に生まれていたようです。

江戸時代の天明二（一七八二）年に東坊城村と呼ばれたこの地で、村を挙げた一揆（いっき）が起こりました。農業不作で免税を領主に願い出たが認められず、珍しい「傘形連判状」を持った村代表が江戸の領主を訪ね直訴に及び、代表たちが処分を受けたものの村人らの勢いで免税が一部、認められたようです。

この勢いを伝えるような祭りが、いまでも同地で続いています。昭和五七年に県の無形民俗文化財に指定された東坊城の火祭り「ほうらんや」です。毎年八月一日に六つの字から繰り出した大勢の村人が、直径一・五メートル、長さ三メートル、重さ五〇〇キログラムを超える大たいまつ多数を担ぎ出し、万田・八幡神社と弓場・春日神社の境内を暴れ回る勇壮な火祭りです。

ちなみに「坊城」とは、みやこ・都城を意味します。